

総合評価結果報告書

施設の名称	静岡市清水みなとふれあいセンター		
課名	障害福祉企画課		
指定管理者名	社会福祉法人静岡市しみず社会福祉事業団		
指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日		
評価委員会 開催年月日	令和2年7月29日（水）		
評価委員 ※（ ）内は職名 等を記載してく ださい。	①委員長 戸塚 直子（障害福祉企画課長） ②委員 望月 巖（障害者支援推進課長） ③ 〃 萩原 弘樹（清水福祉事務所障害者支援課長） ④ 〃 佐野 可代子（静岡市清水手をつなぐ育成会会長） ⑤ 〃 酒井 美香（静岡市重症心身障害児（者）を守る会会員）		
評価点 （各委員平均点）	82.8点	評価	A・ B ・C・D・E
評価結果詳細	別紙「総合評価結果総括表」のとおり		
総合評価結果を踏 まえての施設所管 課としての意見	<p>総合評価結果を踏まえ、事業は計画どおり実施され、概ね良好な施設運営であったと考える。</p> <p>事業の実施に当たっては、専門的な資格を有した人員の適切な配置、職員の教育・研修、適切な経理により健全な運営が行われていること、ボランティア研修会の実施やシニアサポート制度を活用するなどして、積極的にボランティアの受入れ体制を確立していることなどについて、高い評価を得た。</p> <p>利用者の満足度調査は、平均で93.1%と高い数値となっているが、最新の調査では87%と目標値に届かなかつたため、今後も90%以上を維持できるよう、調査結果の分析に基づいた改善を行うことが必要である。また、新規利用者の確保については指定管理者の創意工夫による具体的な取組を行うことが課題であると考えます。</p>		

総合評価結果報告書

施設の名称	静岡市清水うみのこセンター		
課名	障害福祉企画課		
指定管理者名	社会福祉法人静岡市しみず社会福祉事業団		
指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日		
評価委員会 開催年月日	令和2年7月29日（水）		
評価委員 ※（ ）内は職名 等を記載してく ださい。	①委員長 戸塚 直子（障害福祉企画課長） ②委員 望月 巖（障害者支援推進課長） ③ 〃 萩原 弘樹（清水福祉事務所障害者支援課長） ④ 〃 佐野 可代子（静岡市清水手をつなぐ育成会会長） ⑤ 〃 酒井 美香（静岡市重症心身障害児（者）を守る会会員）		
評価点 (各委員平均点)	87.6点	評価	A・ B ・C・D・E
評価結果詳細	別紙「総合評価結果総括表」のとおり		
総合評価結果を踏 まえての施設所管 課としての意見	<p>総合評価結果を踏まえ、事業は計画どおり実施され、概ね良好な施設運営であったと考える。</p> <p>施設長以下指導員全てが保育士資格を有するなど、専門的な人員の配置に努めている。特に、保護者からも要望の多い発達検査の機会を充実させるため、新たに公認心理師を配置したことについては高い評価を受けた。</p> <p>清水区内6箇所のこども園の交流保育を行う取組、保護者の意見を積極的に収集して事業運営に反映させる姿勢、事務事故が過去5年間発生していないことなどについても、評価することができる。</p> <p>今後も、清水地区において児童の療育を行う中心的な事業所として、施設の有する専門機能を活かした積極的な取り組みを期待したい。</p>		

総合評価結果報告書

施設の名称	静岡市清水なぎさホーム		
課名	障害福祉企画課		
指定管理者名	社会福祉法人静岡市しみず社会福祉事業団		
指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日		
評価委員会開催年月日	令和2年7月29日(水)		
評価委員 ※()内は職名等を記載してください。	①委員長 戸塚 直子(障害福祉企画課長) ②委員 望月 巖(障害者支援推進課長) ③ 萩原 弘樹(清水福祉事務所障害者支援課長) ④ 佐野 可代子(静岡市清水手をつなぐ育成会会長) ⑤ 酒井 美香(静岡市重症心身障害児(者)を守る会会員)		
評価点 (各委員平均点)	86.0点	評価	A・ B ・C・D・E
評価結果詳細	別紙「総合評価結果総括表」のとおり		
総合評価結果を踏まえての施設所管課としての意見	<p>総合評価結果を踏まえ、事業は計画どおり実施され、概ね良好な施設運営であったと考える。</p> <p>令和元年度から常勤の看護師・作業療法士を配置し、医療的ケアが必要となる障がい者の受入れやリハビリ支援の強化を図っている。同施設内で実施しているライフサポート事業は、保護者からの利用希望が多く、人数・回数ともに年々増加し、利用者にも好評であり、土曜日の開所などについても、高い評価を得た。</p> <p>一方、登録利用者数は、定員20人のところ、平成28年度から16人と変化がないため、特別支援学校との連携を強化するなど、利用者増加への取組が課題である。</p> <p>今後も、保護者や利用者の希望を積極的に取り入れながら、利用者にとってサービスの向上につながる取組を継続するよう期待したい。</p>		

総合評価結果報告書

施設の名称	静岡市清水ひびきワーク		
課名	障害福祉企画課		
指定管理者名	社会福祉法人静岡市しみず社会福祉事業団		
指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日		
評価委員会開催年月日	令和2年7月29日(水)		
評価委員 ※()内は職名等を記載してください。	①委員長 戸塚 直子(障害福祉企画課長) ②委員 望月 巖(障害者支援推進課長) ③〃 萩原 弘樹(清水福祉事務所障害者支援課長) ④〃 佐野 可代子(静岡市清水手をつなぐ育成会会長) ⑤〃 酒井 美香(静岡市重症心身障害児(者)を守る会会員)		
評価点 (各委員平均点)	79.4点	評価	A・ B ・C・D・E
評価結果詳細	別紙「総合評価結果総括表」のとおり		
総合評価結果を踏まえての施設所管課としての意見	<p>総合評価結果を踏まえ、事業は計画どおり実施され、概ね良好な施設運営であったと考える。</p> <p>職員の階層別研修やOJT制度の実施、外部の専門研修に職員を参加させて知識や支援技術の向上を図るなどの職員育成の取組や、個別送迎に向けた試行を開始するなど利用者の希望を実現しようとする取組について、高い評価を得ている。</p> <p>利用登録者数は、目標である20人に対して17人と未達成であることから、事業所の特色を生かして魅力をPRするなど、利用者の確保に努める必要がある。</p> <p>また、利用者の満足度が76.5%となっていることから、利用者の希望を積極的に聴取り、朝の体操の実施、個別創作活動や外出時の食事内容の充実、個別送迎の増加など利用者の満足度を向上させるための取組にも期待したい。</p>		

総合評価結果報告書

施設の名称	静岡市清水うしおワーク		
課名	障害福祉企画課		
指定管理者名	社会福祉法人静岡市しみず社会福祉事業団		
指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日		
評価委員会 開催年月日	令和2年7月29日（水）		
評価委員 ※（ ）内は職名 等を記載してく ださい。	①委員長 戸塚 直子（障害福祉企画課長） ②委員 望月 巖（障害者支援推進課長） ③ 〃 萩原 弘樹（清水福祉事務所障害者支援課長） ④ 〃 佐野 可代子（静岡市清水手をつなぐ育成会会長） ⑤ 〃 酒井 美香（静岡市重症心身障害児（者）を守る会会員）		
評価点 （各委員平均点）	87.6点	評価	A・ B ・C・D・E
評価結果詳細	別紙「総合評価結果総括表」のとおり		
総合評価結果を踏 まえての施設所管 課としての意見	<p>総合評価結果を踏まえ、事業は計画どおり実施され、概ね良好な施設運営であったと考える。</p> <p>登録利用者数の増加に向けては、事業所共同説明会等に参加するなど積極的な取組を行っているが、目標54人に対して50人と未達成であることから、今後も継続して取り組む必要がある。また、利用者の令和元年度の満足度調査も74.6%にとどまったため、利用者の満足度の向上のため、努力されたい。</p> <p>静岡市立清水病院との連携による健康管理体制の構築、社会福祉協議会との連携による宿泊を伴う防災訓練の実施等の他機関との連携体制、令和元年度末には新型コロナウイルスの影響を受けつつも就労支援B型の受注を確保し、工賃が県基準を上回ったことなどについて高い評価を得たことから、今後も、継続し、良好な施設運営を行っていくことを望みたい。</p>		

総合評価結果報告書

施設の名称	静岡県清水うなばら学園		
課名	障害福祉企画課		
指定管理者名	社会福祉法人静岡市しみず社会福祉事業団		
指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日		
評価委員会開催年月日	令和2年7月29日(水)		
評価委員 ※()内は職名等を記載してください。	①委員長 戸塚 直子(障害福祉企画課長) ②委員 望月 巖(障害者支援推進課長) ③ 萩原 弘樹(清水福祉事務所障害者支援課長) ④ 佐野 可代子(静岡市清水手をつなぐ育成会会長) ⑤ 酒井 美香(静岡市重症心身障害児(者)を守る会会員)		
評価点 (各委員平均点)	85.0点	評価	A・ B ・C・D・E
評価結果詳細	別紙「総合評価結果総括表」のとおり		
総合評価結果を踏まえての施設所管課としての意見	<p>総合評価結果を踏まえ、事業は計画どおり実施され、概ね良好な施設運営であったと考える。</p> <p>社会福祉士及び介護福祉士等の資格保有者を配置して専門的な支援が行われた。また、強度行動障害者支援者養成研修(基礎研修、実践研修)修了者を適切に配置し、重度障害者支援の充実が図られるとともに、職員が研修を受けた際には、職員の知識や技能の習得のため、全職員へ報告し、情報共有されるなど、積極的に職員育成の取組が行われていた。</p> <p>登録利用者数は、目標61人に対し、平成28年の58人から令和元年の53人へと年々減少しているものの、他事業所で受入困難な利用者を積極的に受け入れていることについては、高く評価された。</p> <p>今後は、利用率向上に向けた取組を継続して実施しながら、引き続き、良好な施設運営を行っていくことを望みたい。</p>		

総合評価結果総括表

施設の名称 [静岡市清水うなばら学園] 課名課名[障害福祉企画課]

指定管理者名 [社会福祉法人静岡市しみず社会福祉事業団]

	A 評価 委員	B 評価 委員	C 評価 委員	D 評価 委員	E 評価 委員	平均 点
1 履行状況の確認 【配点50点】						
(1) 事業の円滑な実施						
ア 事業計画書等に示された事業が予定どおり円滑に実施された (5点×1)	4	4	4	5	5	4.4
イ 仕様書に掲載されている5年後の目標を達成しているか ・登録利用者数：60人 (H25・26年度平均：58.5人) (5点×1)	3	3	4	4	5	3.8
ウ 事務事故が発生していないか (5点×1)	4	4	3	4	3	3.6
(2) 適正な人員配置						
ア 専門的な資格を有した人員について、適切な人事配置が行われた (5点×1)	4	5	4	5	5	4.6
イ 施設運営上必要となる職員の教育・研修が計画的に実施された (5点×1)	4	5	5	5	5	4.8
(3) 施設の適切な保守・管理・点検・清掃等						
ア 専門技能を有した第三者への業務委託等を実施し、施設・設備の保守・管理・点検・清掃等が適切に実施された (5点×1)	4	4	4	5	5	4.4
イ 緊急時・事故発生時での迅速な対応と市へ連絡・報告がなされている (5点×1)	4	4	3	5	4	4.0
ウ マニュアル等を整備し、適切な防災・救急訓練等が定期的に行われた (5点×1)	5	4	4	5	4	4.4
(4) 会計・庶務事務等						
ア 健康診断の実施等、利用者の健康把握に配慮し、また個人情報の保護が適正に行われた (5点×1)	4	4	4	5	5	4.4
イ 適切な経理がされており、健全な運営がなされた (5点×1)	4	4	4	5	5	4.4
小計	40	41	39	48	46	42.8
2 指定管理者の創意工夫 【配点15点】						
ア 指定管理者のもつ専門性・技術・ネットワーク等を活かした事業が実施された (5点×1)	4	4	5	5	5	4.6
イ 質の向上に向けた取組が積極的に行われた (5点×1)	4	4	4	5	5	4.4
ウ ボランティア等の受入れに対する姿勢や体制を確立した (5点×1)	4	4	4	4	3	3.8
小計	12	12	13	14	13	12.8

3 市民（利用者）のサービスの向上							【配点15点】
ア	利用者の満足度調査において高い評価を受けた (5点×1)	4	4	5	4	4	4.2
イ	利用者満足の上昇のため、専門的知識、技能習得等職員の資質向上がなされた (5点×1)	4	4	4	5	4	4.2
ウ	利用者及び保護者からの意見を積極的に収集する体制を構築し、寄せられた意見等の対応が適切になされた (5点×1)	4	4	4	5	4	4.2
小計		12	12	13	14	12	12.6
4 施設固有の評価項目							【配点20点】
ア	地域と利用者、また利用者同士の交流を図る等、開かれた施設運営が行われた (5点×1)	5	4	4	5	5	4.6
イ	利用者にとってサービスの向上（利用者に応じた社会体験活動や送迎サービスの提供、土曜活動等）を図る取組を積極的に行った (5点×1)	4	4	4	4	4	4.0
ウ	施設利用者との良好な関係の保持のための取組を積極的に行った (5点×1)	4	4	4	4	4	4.0
エ	定員に対する利用者の現状を把握し、利用率の向上がなされた (5点×1)	4	4	4	5	4	4.2
小計		17	16	16	18	17	16.8
合計		81	81	81	94	88	85.0

※ 評価委員名は記載しない。

※ 平均点は小数点以下第2位を四捨五入する。

各評価委員の所見のまとめ（※各評価委員の所見をそのまま記載してください。）

【A評価委員】

- ・登録利用者の目標に達成できていない。また利用者が年々減少していることから、積極的な増加策を実施されたい。
- ・利用者が多いためか事故の件数も多いので、一件でも減らすようお願いしたい。

【B評価委員】

- ・BCP（法人）作成→今後各施設単位に作成していく。
- ・利用者の特性から市民ボランティアよりも福祉系学生ボランティアを受入。（自閉症・行動障害等）
- ・宿泊を伴う防災訓練。

【C評価委員】

- ・BCPは毎年検討しているようなので、より充実させてもらいたい。

【D評価委員】

- ・研修参加から全職員の報告までしっかりなされ、情報共有されている。

【E評価委員】

- ・BCPの作成を確実に。
- ・個々の健康は体力面とメンタル面がある。利用者を両面から見守ってほしい。
- ・ボランティアの受入れは、利用者の気持ちを中心に考えて。

評価委員会としての意見

- ・社会福祉士及び介護福祉士等の資格保有者を配置して専門的な支援が行われた。また、強度行動障害者支援者養成研修（基礎研修、実践研修）修了者を適切に配置し、重度障害者支援の充実が図られるとともに、職員が研修を受けた際には、職員の知識や技能の習得のため、全職員へ報告し、情報共有されるなど、積極的に職員育成の取組が行われていたことは評価することができる。
- ・登録利用者数は、目標61人に対し、平成28年の58人から令和元年の53人へと年々減少しているものの、他事業所で受入困難な利用者を積極的に受け入れていることは、高く評価する。
- ・利用率向上に向けた取組を継続して実施されたい。